

平成19年度

主要施策の成果

平成20年10月

大田区

平成 19 年度 主要施策の成果

平成 19 年度の主な事業（大田区緊急 2 か年計画事業）と決算額は、次のとおりです。
 なお、緊急 2 か年計画事業のうち、財政負担を伴う事業のみ掲載しております。

事業名	内容	決算額（円）
地域力を活かした魅力的なまちをつくります		
1 地域力を高めるきっかけをつくります		
1	大森ふるさとの浜辺公園の整備 大森ふるさとの浜辺公園が、区内で有数の交流拠点となるよう、地域住民が主体となる公園づくりを進めています。「大森ふるさとの浜辺公園を育てる会」が発足し、夏季には砂浜での飲み物販売、冬季にはアサクサノリの養殖実験を行い、環境学習の一環として、近隣 4 小学校の海苔すき体験等を支援しました。 また、姉妹都市・友好都市の記念植樹エリアを整備し、北京市朝陽区との友好 10 周年の記念植樹を行いました。	56,554,680
2	NPO・区民活動フォーラムの開催 区民が地域活動に参加する機会を設け、地域活動団体と行政、企業、団体間の連携を促進するため、NPO・区民活動フォーラムを開催しました。パネル展示、講座、ミニイベントに会場した人数は、延べ 1,079 人でした。	316,405
2 地域力を支えていきます		
1	自治会・町会会館の整備助成 自治会・町会活動の充実を図るため、町会会館の解体・新築（1 件）、修繕（2 件）について、経費の一部を助成しました。	28,667,047
2	特別出張所の改築 区民に身近な窓口サービスの向上や地域振興の充実を図るため、老朽化した特別出張所の改築を計画的に進めています。雪谷特別出張所の改築が終了し、平成 20 年 2 月新庁舎で業務を開始しました。	148,584,724
3 まちの魅力を発掘・発見・発信し、観光のまち大田をめざします		
1	(仮称)海苔資料館の整備 海苔養殖の歴史や生産技術等の伝統文化を継承し、海苔や海辺の情報発信拠点となる施設の整備を進めました。建物の建設、文化財・資料の移送、施設管理業務の一部委託の準備、広報等、開設準備を進め、平成 20 年 4 月に「大森 海苔のふるさと館」としてオープンしました。	466,672,173
4 文化のかおり豊かな魅力的なまちをつくります		
1	区民ギャラリーの整備 区民が製作した絵画、写真、書道などの作品を展示する「区民ギャラリー」を、地域行政センター 2 か所、特別出張所 11 か所に整備しました。	1,331,761
5 魅力的なまちをつくるための都市基盤を整備します		
1	蒲田駅前東西広場再整備基礎調査 羽田空港の国際化や、京浜急行連続立体交差事業の進展など社会情勢が変化するなかで、中心核として魅力あるまちづくりを進めるために、蒲田駅周辺の交通実態や他の整備事例の調査などを実施しました。今後の駅周辺の都市基盤のあり方や具体的な課題解決手法など、再整備基本計画策定に向けて計画の方向性を検討しました。	8,986,891

事業名		内容	決算額(円)
2	自転車対策事業	駅前放置自転車問題を解決するため、大森・蒲田・雪が谷大塚駅の自転車利用の実態を調査し、整備目標を策定しました(内部検討会10回開催)。沼部駅前及び日本工学院地下自転車等駐車場の供用開始、大森駅西口自転車駐車場増設整備のための土地購入(263.72㎡)を行いました。また、自転車指導員を新たに大岡山・洗足池・糞谷駅にも配置し、指導を強化しました。	820,419,064
3	コミュニティバス導入の検討	コミュニティバスを導入するにあたっての基本的な考え方、導入候補地、区の支援のあり方等を、行政、住民、商工・福祉・観光関係者による「コミュニティバス導入検討委員会」(3回開催)で検討しました。その結果、矢口、南馬込、西蒲田地域を導入候補地域に選定しました。委員会は透明性を確保するため公開とし、ホームページで概要を公表しました。	6,300,000
4	魅力ある公園づくり	誰でも安心して楽しく公園が使えるように、老朽化した既設の遊具や施設を改修しました。改修にあたっては、幅広い世代の公園利用を検討し、複合遊具や健康遊具の設置を行いました。(計17公園)	74,008,800
5	大森駅周辺地区の整備	民間活力を利用し、公共施設の整備と併せて、にぎわいの拠点施設として大森駅周辺地区を整備します。開発に向けて、事業者の公募を行い、選定委員会での審査を経て、優先交渉権者等を決定しました。	10,331,919
6	大岡山駅周辺地区の整備	「人と緑と文化の調和するまち」をめざし、交通基盤の整備として、駅前広場の整備(約4,200㎡)、街路等整備(約70m)、電線地中化工事(約262m)などを行いました。	348,475,291
7	雪が谷大塚駅周辺地区の整備	「地域核」雪が谷大塚駅周辺地区の整備の一環として、大田西地域行政センターの新築工事を進めました。年度末の進捗率は54.3%です。	270,339,447
8	桜のプロムナードの整備	「水と緑のネットワーク」として、洗足流れ・馬込桜並木・内川に至る散策路を整備しています。大森橋～新橋(両岸)の設計が完了し、内川橋～新橋(左岸)の整備工事が完了しました。	18,926,250
9	水と緑の散策路整備	地域の自然、歴史、文化などにふれながら、散策やサイクリングのできる「水と緑の散策路」の整備工事(多摩川二丁目24番～西六郷三丁目32番先。延長距離1,100m)の実施設計を完了しました。	7,665,000
10	都市計画道路の整備(補助43・44号線その2)	交通の円滑化や安全な歩行者空間を確保するために街路整備を進めています。補助43号線 期地の用地(127.20㎡)を土地開発公社から購入し、補助44号線その2の第 期工事の用地買収が完了したため実施設計を修正しました。また、補助44号線 期地の用地(45.64㎡)を土地開発公社が取得しました。	195,398,060
11	都市計画公園の整備	潤いと安らぎのあるまちづくりを進めるため、丸子多摩川公園(田園調布せせらぎ公園)の用地を取得し、誰でもトイレ・防球フェンス・手すり・案内板設置などの整備工事を行いました。このほか、北馬込一丁目公園の用地(1,746.78㎡) 多摩川台公園の増設用地(383.13㎡)を土地開発公社より購入し、公園工事の設計が完了しました。また、洗足小池公園の工事に着手しました。	3,134,682,324

事業名		内容	決算額(円)
12	区営住宅改善・建替事業	区営住宅中央四丁目アパートの建替えに向けて、山王三丁目用地と中央四丁目用地の土地交換契約を締結し、中央四丁目アパート解体工事を完了しました。建替えの実施設計(山王三丁目及び大森西四丁目区営住宅建設)を進める中で、建設計画の住民説明会(4回開催)や各戸への説明を行いました。	55,083,000
13	京急線の連続立体交差事業	環状八号線仮立体(上り線)が、平成20年春に完成しました。年度末での事業費ベースの進捗率は58%です。	2,749,249,464
14	京急関連駅周辺のまちづくり事業	京急蒲田駅西口、糎谷駅、雑色駅周辺地区のまちづくり重点地区における駅前空間や住・商業環境の整備を図るため、市街地再開発準備組合、まちづくり研究会等の活動を支援しました。糎谷駅前地区第一種市街地再開発事業の都市計画決定をしました。京急蒲田駅西口地区内の共同住宅に対し、都心共同住宅供給事業の補助をしました。	118,316,800
15	京急線の連続立体交差事業に係る街路事業	京急線連続立体交差事業にあわせて、関連駅周辺の側道、アクセス道路、区画街路等の整備をしていくため、用地取得を進めました。年度末の用地契約率は51%です。	496,684,134
16	京急線の連続立体交差事業に係る街路受託事業	東京都との業務委託協定に基づき、事業に必要な用地取得を行いました。年度末の用地契約率は84%です。	73,357,776
6 大田区のモノづくりが地域経済をリードします			
1	(仮称)新産業基本戦略の策定	大田区の産業を取り巻く情勢の変化に対応し、さらなる大田区産業の発展を図るための「(仮称)新産業基本戦略」の策定に向け、「産業振興基本戦略検討委員会」を1月に設置し、検討を行いました。(2回開催)	14,560,726
2	中小企業融資制度の充実	中小企業の長期的・安定的な資金調達を支援し、さらに利用しやすい制度とするため、中小企業融資制度を改正しました。融資・経営相談を5,937件、融資を1,956件実行しました。	412,540,002
3	新製品・新技術開発支援事業	企業や企業グループに対して、新市場開拓等に向けた新製品・新技術開発費の一部を助成しました。(13件助成)	24,509,790
4	創業支援事業	新たなオンリーワン企業の創出及び新分野に挑戦する企業のために、創業支援施設の使用希望者の募集・審査を定期的に行い、オフィス3室、シェアードオフィス5ブースを新規に提供しました。平成18年度に使用開始した起業家(2期生)は、インキュベーションマネージャーの支援の下で、事業活動を軌道に乗せつつあります。	28,726,134
5	産業支援施設の整備	基盤的技術産業の操業環境の整備と、創業・新分野進出企業の研究開発環境等の向上を図るため、大森南四丁目の工場アパートの整備を進めました。平成20年5月に「テクノFRONT森ヶ崎」として開設しました。	1,741,572,468
7 商店街が地域のにぎわいをつくります			
1	新・元気を出せ!商店街事業	地域のコミュニティの中心として、活力あるにぎわいのある商店街をめざし、商店街のイベント事業(112件)、活性化事業(15件)について、事業費の一部を助成しました。	131,479,000

事業名		内容	決算額(円)
2	商店街再生支援事業	商店街の課題や改善策の検討、計画策定を支援するため、11商店街にコンサルタントを派遣しました。	3,828,000
8 循環のまち、みどりのまちをつくります			
1	区民との連携による地球温暖化対策の推進	地球温暖化対策として、区民や事業者にも取り組みへの参加を求める「大田区地球温暖化対策地域推進計画」を策定しました。この計画に基づいた取り組みを具体化するため、区民懇談会を2回開催し、区民や事業者が参加する「大田区地球温暖化対策地域協議会」のあり方について協議を行いました。	1,478,160
2	学校施設の緑化の推進	地球にやさしいまちづくりとともに、子どもたちの環境教育の充実を図るため、小学校4校を壁面緑化、中学校4校を屋上緑化、小学校1校の校庭を芝生化しました。	125,861,562
3	廃プラスチックのサーマルリサイクルの実施	環境負荷の軽減と処分場の延命を図り、同時に焼却時の熱エネルギーの有効利用を図るサーマルリサイクルのモデル収集事業を区内全域に拡大(約21,000か所)しました。また、分別基準、収集回数の変更等を実施しました。	82,978,357
地域の力で安全・安心なまちをつくります			
1 地域力を活用した防犯対策を進めます			
1	地域安全・安心パトロール活動団体の連携・支援	地域の自主的な防犯活動を支援し、地域防犯力の向上を図るため、地域で「防犯パトロール活動」をしている自治会、町会、PTA、地域団体に対して活動経費の一部を助成しました。(自治会・町会11件、PTA11件、地域団体4件)	2,411,000
2 地域の防災力を高めます			
1	大田区地域防災計画の見直し	国や都の首都直下地震による被害想定公表、防災計画の修正等を踏まえ、地域における災害対策の基本となる「大田区地域防災計画(震災編・風水害編)」の修正に向け、ヒアリング、東京都との協議、防災会議を行い、計画書を作成・発行しました。	4,974,485
2	洪水ハザードマップ等の作成	水害対策の充実を図り、区民の安全を守るため、洪水時の浸水の程度、避難所・避難方法等の情報を記載した「大田区洪水ハザードマップ」の作成を進めました。	4,462,500
3	災害時要援護者支援対策の推進	区内の防災市民組織が災害時要援護者支援体制を確立するため、地域に支援組織の結成を呼びかけ、新たに10団体が設立されました。(総数85団体)	3,340,889
4	公共施設の耐震性向上	耐震改修促進法改正により耐震診断の指導・指示の対象となった公共施設のうち、耐震診断を実施していない建物について診断を実施し、その結果に基づき必要な耐震補強の検討を行っています(2か年で行う予定)。58棟の耐震診断を実施し、耐震判定会を20回開催、補強設計を3件実施しました。	120,211,000
5	(仮称)東糀谷四丁目公園を活用した防災拠点づくり	(仮称)東糀谷四丁目公園を防災機能を有する公園として整備し、平時や災害時に広く活用できる防災拠点とするため、防災機能の調査・検討を実施しました。	5,848,500
6	橋梁の耐震整備	災害に強いまちづくりをめざし、災害時の緊急道路障害物除去路線(啓開道路)や鉄道を跨ぐ橋梁等の耐震整備を進めています。11橋の設計を委託、5橋の工事に着手し、そのうち1橋の工事が完了しました。	220,930,500

事業名		内容	決算額(円)
7	大田区耐震改修促進計画の策定	災害に強いまちの早期実現をめざし、住宅・建築物の耐震化を促進する「耐震改修促進計画」を策定しました。平成27年度までに、住宅・民間特定建築物の耐震化率を9割とすることをめざします。	4,389,000
8	耐震診断・改修助成	震災から区民の生命・財産を守る災害に強いまちづくりを進めるため、区内建築物について、予備診断(540件)・耐震コンサルタント派遣(245件)・耐震診断(80件)・耐震改修計画設計(8件)・耐震改修工事(6件)についての助成を実施しました。	48,019,640
9	防災行政無線(固定系)の更新	区民へ災害情報等を伝える防災行政無線(固定系)の安定的な運用を図るため、導入から20年以上経過している無線設備の現況調査を行い、デジタル方式による設備更新を決定しました。また、更新に必要な電波伝搬調査を実施しました。	10,169,250
3 地域の安全性を高めま			
1	踏切の安全対策	踏切における歩行者等の安全性を向上させるため、踏切の拡幅工事1件、歩車道分離工事(カラー舗装)5件を完了しました。	43,927,984
世界に誇る国際交流拠点のまちをめざします			
1 国際交流の楽しさ、大切さを伝えます			
1	中国北京市朝陽区との交流の推進	北京市朝陽区から青少年9人(引率3人)を受け入れました。(8月11日から17日) また、友好10周年を記念して、6人を招へいし(11月8日から13日)、植樹(大森ふるさとの浜辺公園) 記念碑の設置(区役所本庁舎前) コンサートを実施しました。	5,303,495
2	アメリカ合衆国セーラム市との交流の推進	姉妹都市セーラム市へ親善訪問団(15人、随行4人)を派遣し(10月12日から21日) またセーラム市から市民訪問団(16人、随行1人)を受け入れました(6月21日から7月4日)。また、子どもたちの絵画の交流展を双方で実施しました。	3,243,707
3	異文化交流会の実施	区民と外国人が、体験を通して相互理解を深めるため、「メキシコと日本の料理を味わう」「楽しい感謝祭!」をテーマにした異文化交流会を実施しました(参加者延べ58人)。新たな取り組みとして、サロン形式の交流会を4回実施しました。(参加者延べ83人)	49,149
2 外国人にとって暮らしやすい地域社会を実現します			
1	教育の国際化の推進	小中学校の児童・生徒(45校、103人)に対して日本語特別指導講師を派遣し、日本語特別指導、保護者の相談等を行いました。通級型日本語指導教室の平成20年度当初開設に向けて準備を進めました。 ALT(外国語指導助手)を小中学校に派遣し、小学校高学年1クラスあたり18時間、中学校1クラスあたり15時間の英語指導を実施しました。	69,771,200
3 羽田空港の国際化を周辺地域の活性化につなげます			
1	空港臨海部の整備基本計画の策定	空港再拡張によってもたらされる影響や今後の方向性を検討するため、臨海部の概況や交通・産業の現状把握等の調査を実施しました。	7,387,000

事業名		内容	決算額(円)
2	東西鉄道「蒲蒲線」の整備促進事業	羽田空港へのアクセス路線として、より多くの方々に知ってもらうため、東西鉄道「蒲蒲線」を新空港線「蒲蒲線」と呼ぶことにしました。蒲蒲線整備に関して、国、都、鉄道事業者等との勉強会を開催(5回)し、運行パターン等の検討を行いました。都や都議会、整備効果の大きい区の区長等に要請活動を行いました。また、促進活動として「整備促進区民協議会」が開催されました。(215人参加)	9,637,130
4 区内産業の国際進出を支援します			
1	海外見本市・国内見本市への出展支援	区内企業の新たな市場拡大、取引促進、ネットワークの構築を支援するため、中国で2展示会6社(新規3社)、タイで1展示会8社(新規3社)、国内で6展示会31社(新規14社)の共同出展の支援を行いました。	23,478,621
2	海外取引相談事業(アジア・ネットワーク展開事業)	アジアを中心に海外進出や取引拡大をめざす区内企業のために、相談・助言指導(海外取引相談352件)、タイ・ベトナム産業視察を実施しました。また、タイの工場団地会社が設立した、大田区中小企業向け集合工場は、第1期棟が満杯になり、入居希望企業のために、第2期工事に入りました。	8,896,047
すべての区民が元気で暮らせるまちをつくります			
1 新たな教育課題に積極的に取り組みます			
2 確かな学力を身につける学校教育を進めます			
1	学力向上事業の充実	児童・生徒が学力を確実に身につけられるよう、小中学校で中核となる教員を「授業改善リーダー」(小学校4教科16人、中学校5教科20人)として位置づけ、公開授業や成果を発表するセミナーを実施しました。学力の定着を図るため、区独自の小学校作文指導教材「書くって楽しいね」を作成し、活用しました。学習指導講師を派遣(小学校42校延べ280人、中学校14校延べ112人)し、担任の補助、少人数指導、補習等を行いました。学校生活規律の向上のために、生活指導支援員を配置しました。(小学校8校16人、中学校8校20人)	29,746,828
2	体験活動の充実	小学校における自然体験を充実させるため、平成21年度より5年生の「伊豆高原」に加え、6年生の「とうぶ」での3泊4日の移動教室を全小学校で実施する計画を決定しました。また、職場体験を中学校28校中1校が5日間、1校が4日間、26校が3日間実施しました。	16,380
3	特別支援教育の実施	通常の学級に在籍する障がいのある児童・生徒の能力や可能性を最大限に伸ばすため、学校特別支援員を小学校40校(児童454人)、中学校9校(生徒61人)に対して配置しました。また、全小中学校において特別支援教育コーディネーターを指名しました。	15,608,724
4	習熟度別指導の充実	児童・生徒一人ひとりの個性と能力を引き出し、基礎学力の向上を図るため、小学3~6年の全学級の算数、中学校のほぼ全学級の数学・英語の授業において、少人数習熟度別授業を実施しました。	64,130,000

事業名		内容	決算額(円)
5	おもしろ理科教室 (理科特別支援員)	小学校理科教育を活性化し、科学技術に対する興味・関心の向上を図るため、特別講師による授業を小学校54校で計312回実施しました。 また、観察・実験等の体験的な学習について、理科支援員を小学校48校に計832回派遣しました。	5,361,800
6	学校図書館の充実と有効活用の推進	児童・生徒の読解力の向上を図るため、朝読書を全小中学校で実施しました。また、地域ぐるみで学校図書館の有効活用を図るため、図書ボランティアの協力校を小学校49校、中学校7校に拡大しました。	347,014,337
7	小学校スクールカウンセラーの充実	いじめや不登校などの問題解決を図るため、スクールカウンセラーを全小学校(館山さざなみ学校を含む)に派遣しました。(2日配置校3校、1日配置校36校、半日配置校21校)	65,942,068
3 生涯にわたる教育の環境整備を進めます			
1	総合体育館の建設	「生涯スポーツの拠点」としてふさわしい総合体育館の建築に向け、旧体育館の解体設計、新体育館の基本設計を行いました。	37,742,200
2	図書館インターネットサービスの導入	利用者が自宅のインターネットを通じて、蔵書検索や予約申込みができるように、指定管理者との協議や業務手順、個人情報保護等の検討を行い、システム開発・更新を実施しました。(平成20年4月よりサービスを開始しました。)	17,936,606
3	校舎・屋内運動場等の改築・改修	良好な教育環境を確保するため、老朽化が進んだ羽田中学校の校舎・体育館・プールの改築工事設計、東調布中学校体育館の改修工事設計を行いました。	44,569,350
4	学校施設の整備	良好な学校施設の環境を確保するため、トイレ改修(6校)、屋上外壁改修(7校)、照明設備改修(3校)、水飲栓の直結給水化(4校)を行いました。	859,250,985
4 安心して生み育てられる環境づくりを進めます			
1	子育てサポートシステムの充実	相談・親子交流など子育てサポートシステムを充実させるため、身近な子育ての拠点として子ども家庭支援センター「キッズな大森」を2月に開設しました。相談件数は、電話138件、来所35件(うち多目的室利用8件)、子育てひろば内相談208件、臨床心理士による専門相談10件(うち多目的室利用1件)でした。	307,685,487
2	保育所等の整備 (雪谷保育園改築)	待機児解消や多様な保育ニーズに対応するため、保育所等の整備を進めています。雪谷保育園が開園し、(仮称)久が原一丁目保育園の新築工事を進めました。また、認証保育所の整備助成を行い、3か所(定員120人)が開設されました。	233,092,664
	保育所等の整備 ((仮称)久が原一丁目保育園の新設)		90,584,049
3	フレンドリーおおた事業の実施	フレンドリー蓮沼の開設により、徳持地域の学童保育の需要超過が解消しました。梅田、松仙、萩中幼稚園について、幼稚園舎を学童保育用に改修するための施設調査を行いました。	102,520,222

事業名		内容	決算額(円)
4	病後児保育事業	病気回復期やけが等により、保育園等に通えない児童の保育の充実を図るため、病後児保育施設 1 施設を開設(定員 4 人) 利用率の高い 1 施設の定員を 2 人増やしました。これにより、区内の病後児保育施設は 5 施設、定員 22 人となりました。	42,463,231
5 区民の健康づくりを応援します			
6 高齢者のいきいきを支援します			
1	認知症高齢者グループホーム防火対策緊急整備支援事業	認知症高齢者がグループホームで安全で安定した生活を送れるように、平成 21 年 4 月施行予定の消防法施行令等の改正に対応した新規施設の整備を図ります。従前の整備補助に加え、新たに防火対策に要する費用の一部を助成しました。(新規施設 1 件)	4,400,000
2	健康入浴大学の開講(パイロット事業)	健康教育(出前型講座)の一環として、入浴を通じての健康増進を図るため、おおむね 65 歳以上の高齢者を対象にした「健康入浴大学」を開講しました。8 か所で実施し、78 人が参加しました。	192,570
3	在宅介護サービスの充実	介護予防事業として、特定高齢者訪問による事業参加勧奨(682 件) ひとり暮らし高齢者訪問(271 件) 生活機能評価(500 人) 通所型・訪問型介護予防事業(通所型 396 人、訪問型 17 人参加) 介護予防活動支援リーダー育成講座(5 日制、28 人参加)を実施しました。認知症予防事業として、講演会を 2 回開催(計 704 人参加) ファシリテーターの育成(5 人)などを行いました。訪問歯科支援事業として、訪問歯科審査などを行いました。(計 131 件)	28,828,929
4	高齢者虐待対応の整備	高齢者虐待を防止し、虐待発生時には迅速で適切な対応ができるように、区内部で「高齢者虐待防止検討会」を開催しました。また「大田区高齢者虐待防止関係機関連絡会」を開催し、関係機関との連携を進めました。高齢者虐待による緊急時の入所のため「大田区高齢者虐待緊急保護実施要綱」を制定し、専門的見地(弁護士・医師)による職員研修会(2 回)及び事例検討会(2 回)を実施しました。平成 19 年度の高齢者虐待通報受理件数は 60 件あり、各事例について確認・対応を行いました。	140,412
5	借上型住宅整備事業	民間事業者が建設する賃貸住宅を区が 20 年間借上げ、高齢者住宅として貸出す事業です。シルバーピア・前の浦(大森南二丁目、31 戸)が 6 月に完成し、シルバーピア・コージー(南蒲田三丁目、47 戸)が 11 月に着手しました。また、平成 20 年 1 月のオーナー募集では、羽田四丁目(30 戸)と西六郷二丁目(23 戸)が採用しました。この 2 件は平成 20 年度に設計・着工の予定です。	40,782,000
7 障がい者の社会参画と自己実現を支援します			
1	(仮称)久が原一丁目ケアホームの整備	親亡き後の知的障がい者の自立をサポートする施設「(仮称)久が原一丁目ケアホーム」を整備するため、施設の設置・運営をする社会福祉法人の募集・選定を行い、法人による実施設計に対して補助しました。	5,244,703

事業名		内容	決算額(円)
区民主体の区政を実現します			
1 区民参画による政策づくりを進めます			
1	新大田区基本構想・基本計画の策定	社会情勢の変化や新しい区政の課題に的確かつ迅速に対応するため、基本構想・基本計画の策定に向けて取り組みました。9月には区民代表、学識経験者、区議会議員で構成する基本構想審議会を設置し、3月24日に区長に答申しました(全体会等8回、3専門部会を各7回開催)。あわせて、庁内検討会(3作業部会)を設置し、審議会資料の検討・作成等を行いました(庁内検討会4回、作業部会35回開催)。また、区民アンケート調査(対象2,400人、回収数1,595、回収率66.5%)、区民との意見交換会(4回開催、参加者延べ155人)を実施しました。	21,582,685
2	区民との連携による公共施設のバリアフリー化の推進	身体障がい者団体や地域住民、関係機関等が参加するバリアフリー合同点検を実施しました(道路・公園:6回実施、139人参加。新築・改修施設:2回実施、33人参加)。また、だれでもトイレを大岡山駅前に整備しました。	104,808,159
2 区民にわかりやすい行政サービスの改善を進めます			
1	総合窓口の改善	「おおた再生プラン」の課題として、地域行政センターと特別出張所の窓口機能の見直しについて、検討組織を設置し、組織改正も含め検討を行いました(8回開催)。本庁舎の窓口改善は、本庁舎の主な窓口職場による本庁舎窓口改善プロジェクトチームを設置し、各課の要望・状況報告、窓口業務量・区民動線調査等の結果分析に基づき、具体的再配置案の検討を行いました(6回開催)。	4,293,123
活力に満ちた新しい区政を実現します			
1 開かれた区政を実現します			
1	ケーブルテレビによる区政情報の発信	区政情報や区民の様々な暮らしぶり、活動する姿を広報し、区民との情報の共有・地域コミュニティの活性化を図るため、ケーブルテレビで24本の広報番組を制作・放送しました。また、平成20年1月より新シリーズ「わがまち自慢」を開始しました。	19,656,000
2	外部監査制度の推進	区の仕事の有効性・効率性等を外部の専門家が検証し、その結果や意見を受け、区政運営に役立てるため、「国民健康保険事業・特別出張所の管理運営」の包括外部監査を実施しました。また、平成18年度の監査の結果「高齢者施設の管理運営」に対する措置状況を公表しました。	10,554,410
3	情報化基盤整備(基幹系システム再構築)	区民サービスの向上と業務改善を実現するため、基幹系システムの再構築について139回の検討会を実施し、新業務フローを作成しました。各業務パッケージの選定に向け、各種調査・検討などを実施しました。また、PMO(プロジェクト管理委員会)を3回、専門部会を5回開催しました。	74,655,000
2 効率的・効果的な区政運営を実現します			
3 区政の総点検を実施します			